

ならちゅうしん経営研究会
定例総会及び第 325 回例会報告

日 時	平成 30 年 7 月 18 日 (水)				
開催場所	THE KASHIHARA				
内 容	第 1 部	総 会	15 : 00	～	15 : 45 (浄御原の間)
	第 2 部	基調講演会	16 : 00	～	17 : 45 (八重の間)
	第 3 部	懇親会	18 : 00	～	19 : 45 (藤原の間)

基調講演 講 師 歴史作家
関 裕二氏

演 題 「ヤマト建国と壬申の乱から読み解く
皇位継承の真実と天皇の正体」

今年度も、ならちゅうしん経営研究会総会を、THE KASHIHARAにて開催致しました。受付には例年どおり、NPO法人ならチャレンジドのご協力で、奈良県立高等養護学校の生徒さんにお手伝いをして頂きました。

(第 1 部)

第 1 部総会では、恒例に従いまして、上田喜寛会長が議長を務め、ご挨拶を頂きました後、第 1 号議案の平成 29 年度活動報告および平成 29 年度収支決算、剰余金処分(案)並びに監査報告について承認を受けました。続きまして第 2 号議案の平成 30 年度活動計画(案)および平成 30 年度収支予算(案)が審議され、全会一致で承認されました。

(第 2 部)

第 2 部基調講演は、歴史作家の関裕二氏をお迎えし、「ヤマト建国と壬申の乱から読み解く皇位継承の真実と天皇の正体」という演題でお話を頂きました。

関氏は、1959 年(昭和 34 年)に千葉県柏市でお生まれになり、青年期には仏像美術に魅了され奈良に通いつめ独学で古代史を学ばれました。1991 年(平成 3 年)に「聖徳太子は蘇我入鹿である」で作家としてデビューされました。以来、奈良を舞台にした古代史に関する多くの著書を執筆されており、奈良の歴史に大変考証深い作家です。

講演では、ヤマト朝廷の建国に遡って天皇家のルーツに纏わる話から、古代史における重大事件である中大兄皇子、中臣鎌足らが蘇我入鹿を暗殺した乙巳の変の知られざる真実、その後の大化の改新といわれる律令制への大改革、そして天智天皇の太子である大友皇子と、弟である大海人皇子が戦い、大海人皇子が勝利し天武天皇が即位することとなる皇位継承戦争であった壬申の乱について、その背景を独自の歴史感を以って、

お話し頂きました。

関氏の見解では、天皇家のルーツは祭祀を司り災害や疫病を鎮める祭祀王であり、有力な豪族がその権威を支えていたとのことでした。そして日本史上では、これまで守旧派の抵抗勢力とされていた蘇我氏が実は改革派で、改革を嫌った中臣鎌足（→藤原鎌足）が中大兄皇子（→天智天皇）を担ぎ出して改革を潰そうとしたとのことでした。その後、壬申の乱を経て、藤原鎌足の子である藤原不比等が朝廷内で大きな権力を持ち、藤原氏主導で首都が平城京に遷り、藤原氏の指示で編纂された日本書紀が正史となり後世に引き継がれました。

関氏のお話は、独自の研究と歴史感に基づいた説得力のあるお話で、参加された方、全員が、真剣に聞き入っておられ、学ぶことの多いセミナーとなりました。

（第3部）

第3部懇親会では、まず冒頭に上田喜寛会長よりご挨拶を頂き、続いて公益財団法人奈良県地域産業振興センター村上専務よりご来賓を代表してご祝辞を頂き、奈良県産業振興総合センター前野所長の乾杯にて宴が開かれました。

懇親会の途中では、今回の総会より新しくご参加頂きました株式会社愛和の萬喜美恵様よりご挨拶を頂きました。そして、当会発足時よりの会員様で、第3代会長をお務め頂きました玉井産業株式会社の玉井良一様より、ならちゅうしん経営研究会30年を振り返ってのスピーチを頂戴しました。その後、30周年記念DVDを上映させて頂き、参加者の皆さん、それぞれ30年の歴史を感傷深く振り返って頂いたことと思います。

最後に、芳仲敏典副会長より中締めのご挨拶を頂き、懇親会は盛大のうちにお開きとなりました。

今回の定例総会は、当ならちゅうしん経営研究会が昭和63年7月7日に発足して30周年の節目の総会となりました。現在も発足時よりの会員様が多く残って頂いております。また代替わりされた会員様、新しく入会された会員様、そして、関係機関の皆様と、多くのかたのご厚意を得まして、30年間続けて来れましたことに改めて御礼申し上げます。

また、奈良中央信用金庫も今年、70周年の節目の年を迎えることが出来ました。これも地域のお客様、特に、当ならちゅうしん経営研究会の会員様には長年に亘り多大なるご支援ご協力を頂いておりますこと、併せて御礼申し上げます。



歴史作家 関 裕二氏（基調講演）



上田喜寛会長（懇親会ご挨拶）



芳仲敏典副会長（懇親会中締めご挨拶）